

# 人の和、地域の輪 「ゆいまーる」

さまざまな立場の人々がお互いに助け合って、安心・安全な地域社会の実現を目指しています。「ゆいまーる」でつながる取り組みを紹介します。



今号の表紙  
沖縄には昔から農作業や生活を助ける「ゆいまーる」の精神が根付いています。助け合いの心はカタチを変えて現代にも受け継がれています。

## 港川自治会では、世代間での交流の輪を広げています

浦添市・港川自治会には老人会や子ども会はありませんが、幅広い年代の交流が盛んです。公民館は、勉強や習いごとをする子どもたちと、運動したりゆんたく（おしやべり）する大人たちの声でいつもにぎやか。自治会でのゆんたくから困りごとの相談・解決につながることも多いそう。手作り弁当を配れば、お礼に自家栽培の野菜を差し入れられたり、駐車場を開放して



公民館ではコロナ対策をしながら活動を継続。カーミーギーでのカヌー体験は毎年行っています。

## 個性的な学びの場があるってホント？

### 島全体を学びの場にして、人や地域をつなげる大学があります

離島では若い世代の交流の場が限られている現状に、「もつと離島の若者が学び、つながる場所を作りたい！」と立ち上がったのがソーシヤル大学「八重山ヒト大学」です。八重山出身の若者を中心に、移住者や共感した人たちが一緒に活動しています。島に住む人や島外で活躍する出身者のインタビューやコラムをウェブ配信しているほか、オンラインでのコミュニケーションの場づくりもしています。

石垣市の「石垣島三ライキャnpas」石垣市公営塾から依頼されて開催した特別授業には、石垣市の高校生が参加。八重山ヒト大学のメンバーがこれからの人生の歩み方について講演しました。

昨年開催したフォトウォークイベントでは普段住み慣れた地域を歩き、あらためて島の魅力を発見。さまざまな活動を通して島を大事にし、人とつながる輪を作っています。

## まるで大家族のような自治会とは？

### お店がない地域や買い物弱者を助ける車がある？

### 行政と民間が協力して地域住民の生活と安心を支えています

日本全国の買い物弱者数は約700万人と言われ、令和2年に農林水産省が全国1,741市町村を対象にした「食料品アクセス問題」に関する全国市町村アンケート調査では、回答した市町村の中で対策を必要としている割合は85・9%と、平成

27年度以降増加傾向にありまです。沖縄でも本島北部や離島では、住民の高齢化、地元小売業の廃業、既存商店街の衰退などが背景にあり、買い物弱者が多いのが現状です。行政による対策も実施されていますが、全ての地域をカバー



八重山ヒト大学  
<http://human-university.com/yaeyama/>



石垣市公営塾での特別授業(写真/上)やフォトウォークイベント(写真/下)の様子



#### 県内での取り組みを紹介

##### 行政と連携、ロケットーフ2号



本部町山城とうふ店の「ロケットーフ2号」は、買い物支援と町産品の消費拡大を推進する目的で、町の小さな拠点づくり支援事業を活用して導入されました。売店のない地域での高齢者ら買い物弱者支援のために、北部地域を回り、一人暮らしの高齢者などの安否確認も行っています。行政と民間が一体となった移動販売車は本島内では初めての取り組みです。

##### 行政、漁協、商工会が連携



読谷村では2台の移動販売車を村漁業協同組合、村商工会に無償で貸し出しています。地場産業を支えることと買い物弱者支援が目的です。漁協はマグロの刺身や天ぷらなどの鮮魚や惣菜を、商工会は食料品をはじめ、洗剤やゴミ袋といった日用品なども取り揃えており、高齢者だけでなく、車を運転できず買い物にいけない人、コロナ対策で外出を控えている人などを支えています。

## 私にもできるSDGs

### 公民館や自治会の活動に参加してみる



地域を通じていろいろな人と関われるのが公民館や自治会の特徴です。習いごとやイベント、サークルに参加したり、自分の住む地域ともっと関わってみませんか？ 思いがけない地域の魅力に気付いたり、人とのつながりや、ゆいまーるの心に触れることができ、生活が豊かになります。

また、お互いの顔を知っていることで、災害時や何かあったときに助け合いやすくなり、それが地域の治安や安心な生活を支えます。一人ひとりが地域と関わることで町の活性化やゆいまーるの輪を広げ、よりいきいきと暮らせる地域づくりにつながります。



沖縄県は **820円** 28円UP  
使用者も、労働者も、必ず確認。最低賃金



沖縄県は **820円** 28円UP  
使用者も、労働者も、必ず確認。最低賃金